

うしく里山の会 広報誌

# さとやま

No. 91

2010年9月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u\_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



## 「生物多様性」年にあたり 観察隊の活動を思う

里山自然観察隊

平塚芳雄

### 植物観察会 林縁の植生について

今年度は生物多様性年です。十月には「第十回生物多様性条約締結国会議(COP10)」が名古屋で開催されます。

「生物多様性」とは地球上の生物の多様さやその生息環境の多様さのことです。「生物多様性」は遺伝子、生物種、生態系という三つのレベルの多様性でとらえられています。「生物多様性」のたくさんの恵みによって私達人間を含む生き物の「いのち」と「暮らし」が支えられています。

我が国においても平成二十年六月に「生物多様性基本法」が公布され「生物多様性」がもたらす恵みを将来にわたり上手に利用していくために野生生物とその生息環境及び生態系のつながりも含めて保全する各種活動が推進されています。

この時期、里山自然観察隊(観察隊)の活動を振り返ってみます。

平成十五年の「うしく里山の会」発足と同時に「里山歩き」の名称でプロジェクトを発足させ平成十五年度からの四年間は毎月市内各地域を逐次歩き観察した植物・野鳥名を記録。

平成十八年度、名称を「里山自然観察隊」に変更してからは市内のホタルの生息地調査や一般市民の参加を募つての「植物ガイド」の開催、平成十九年度から三年間の「小野川流域の雑木林と水田における植物調査」などを実施してきました。

今年度は新たに「モニタリング1000里地調査(植物相)」の調査基準に則つての植物調査を開始しました。観察隊の目的とするところは身近な自然である地元(里地里山)の草木の実態を直接自分達の目で見て記録しその現状を皆さんに知らせることです。「モニタリング1000里地調査」はその意に沿うものです。

更に地球温暖化の問題、生物多様性の危機が叫ばれているこの時期、私たち観察隊の活動もこの生物多様性保持に貢献できるような方向で進めなければと考え、先ずは地元の植物調査や自然観察会をスタート台(現状を知る)に活動を進めます。

志ある皆さんの観察隊活動への参加を歓迎します。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。



先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



あやめ園託事業報告

佐藤 輝雄

アヤメ園の素晴らしい環境

今年は例年になく猛暑が続き、アヤメ園でも体感温度は四十度を超える毎日だと思われる。(なぜなら気象予報等で報じられる気温は百葉箱(芝生の上・直射日光が当たらない等の条件)での計測気温のため)。

従って私たちのアヤメ園の作業も、七月後半からはサマータイムと称し、早朝七時から十一時までの四時間を作業時間としている。そのためには五時ごろ起床し六時半ごろには家を出ることになり、特に女性の人たちは家族への朝食の準備等があり大変な事と思う。家族の協力があったこそアヤメ園の作業が成り立つことであろう。

お陰さまで今年は例年より早く株分けを完了することができた。一昨年は十一月初旬まで株分けが続き、次の年の開花への悪い影響が大きく出てしまった。花菖蒲の管理プロの方に聞いても八月末頃まで株分けを終了させる必要があるようだ。そのため暑さ厳しい八月に、力仕事となる大変な田んぼの耕しと畝作り・株分けの作業が必須となる。

この姿を周囲から見ると、「なんでこの暑いのに仕事するの?!」、田んぼを見回しする農家の人達からも「百姓でもこんな暑い中では仕事しないよ!」等と言われてしまう。(自分に言い聞かせる。仕方ないよね!必要なだから!)。作業をしている私たちの仲間も体調が悪くなり早く帰られることもあるが...

全員の気持ちは花菖蒲のために、また来年に美しい花を咲かせるためにと思いきやと頑張れるもので、本当にメンバー全員花菖蒲が好きなのである。

もうひとつ。アヤメ園という自然の中で作業していると、農薬類を一切使用しないためか、いろいろな野生生物に会うことが多い。

野鳥や植物に詳しいMさん・Tさん、昆虫に詳しいKさん、一般的な知識人のSさんとセミプロ級の方がメンバーにいるために、私たちは珍しいものを目にするたびに教えて貰うことができる。

植物では牛久市の準絶滅危惧のアズマツメクサ(ベンケイソウ科)・ミスワラビ(ホウライシダ科)やムシクサ・コケオトギリソウ等、また、雑草として私たちが悩ませるヒレタゴボウ・キレハイヌガラシ・イヌビエ類が多く、これらをほって置くとアヤメ園一面に伸びてしまう。いずれもアヤメ園の管理からは雑草の一部として取り除く植物になる。

水性生物としてはクロメダカが多く列をつくって畝の間を泳ぐ姿が見られる。その他クチボソ・コイ・フナやカエルの仲間・タニシ・ドジョウ等。

余り好かれない生物ではヤマカガシ等のヘビ類・ヒル・アオバアリガタハネカクシ(集団で草の中にいることが多い)。

昆虫も種

類が多くKさんはよくケラを捕獲する。私の小さい頃はケラの「ジー」という鳴き声をミミズが鳴いていると言っていた。(ミミズが鳴くわけがないのに)



私たちに威嚇するウシガエル (ほぼスコップと同じ大きさ) 坂

除草しているとアカネズミの巣がみつかり中に赤ちゃんがいることもある。

時にはカルガモの夫婦がいたり、ハクセキレイやコサギが近くまで寄ってきたり、カワセミが頭上を飛んでいく姿、オオタカがカラスに追われる姿、ヒバリが高く囀る姿、ウミネコが飛んでくるときもある。

このように自然の大好きな人には一年中楽しめるアヤマ園である。会員の皆さん是非アヤマ園のメンバーになりませんか。全員でお待ちしています。時々楽しく懇親会も行います。(飲み放題の好きなメニューも多いです！)



### 親子農業体験講座

一般参加者 森永裕樹・三穂

#### 待ちに待った収穫祭！

みんなでがんばって育てたじゃがいも達を、いよいよ収穫する日がやってきました。七月十七日・晴れ、絶好の収穫日和です。いつもは虫取り等の遊びに夢中で畑仕事にあまり興味を示さない子供たちも、今日はせっせと働いてくれます。土を掘る子、出てきたお芋をバケツに入れる子、バケツを運ぶ子、親がお願したわけではないのに自然と役割分担して、まさに一丸となって収穫に汗を流しました。(とはいえ、やはり子供たちのことですから、農作業の合間(?)にミミズやカエルやバツタを、相変わらず「これでもか!」ってくらい「収穫」したのは、言うまでもありません。)

芋掘りは、土の硬いところは道具を使いますが、畝の土が柔らかいと手ですて土をかき分けるとお芋が顔を出してくれるので、つい夢中になってしま

いました。収穫したお芋は、ゴロンと大きなものばかり!!...というわけにはなかなかいかないもので、小粒でかわいいものもたくさん採れて、農家の方々の苦勞をほんの少しですがわかったような気がします。しかし自分たちで育てたお芋ですから、小さなものもとても愛おしく、「早く食べてみたい!」と期待に胸が高鳴るのです。

収穫と並行して、「芋煮」「芋ピザ」「じゃがバター」の準備をしていただき、さあみんなで、いただきまーす!。とれたてのじゃがいもは、とてもやさしい甘さと食感が何ともたまりませんでした。(願わくば、この時ばかりは騒がしい子どもたちから離れて、じっくり味わいたかったです。)休憩時間に頂いたスイカもみずみずしくてとてもおいしかったです。うちの子どもたちは芋ピザがとても気に入ったので、家に帰ってから早速作ってみました。

次の収穫祭が待ち遠しいですね。これから子どもたちと一緒に、そして縁があつて集まった他のご家族のみなさんとともに、貴重な経験を積み重ねていきたいと思います。



おいしく食べてます 森永 10.7.17



### 雑木林応援隊

原口 隆男

#### ムジナの里での活動を再開して

立秋を過ぎて暑さは又格別、容赦なく照りつける日差しを避けながら八月八日(日)、ムジナの里での作業となりました。

ムジナの里とは牛久自然観察の森を飛び出し、里山の会が提唱する「牛久周辺の自然と人とが調和した美しい里山の保全」を実現すべき、雑木林応援隊が真っ先に手がけた観察の森に隣接する場所の通称です。

応援隊の地道な活動で、荒れるにまかせていた雑木林や竹林が年々見違えるように整備され、活動の場を提供して頂いた地主の方や周囲の住民の方から、感謝とおどろきの眼でみられている一画でもありません。

ひところに比べ動物や昆虫、珍しい植物も増えて里山の四季交々の美しさが見られるムジナの里の今年の試みとして、雑木林応援隊の隊員のやさしい配慮で「きじやうさぎ」の子育ての期間が終わるまでの三カ月の活動を自粛して先月七月から活動再開したところです。

この時期の雑草の伸びはすさまじく一ヶ月前にきれいに刈り込んだ広場も、又元のもくあみで雑草とつたがからみ放題の状態です。単なる荒れはてた草むらとなつています。

早速大型の草刈り機(サンダーバード)が入り大活躍!縦横無尽に見る見る内に綺麗に草が刈り込まれて行く。機械の入らない木の周りや急勾配の箇所は刈り払機を使う隊員がさかさ草を刈ってフオーする。



「森のレストラン雑木林亭」にて楽しい昼食

応援隊得意の相も変わらず手際の良い連携作戦で見る見るうちに伸び放題の草むらが草原に変わっていきます。

続いて道路側では竹林に沿って道路にはみ出した雑草もサンダーバードで刈り込み道路幅を広げる一役もなう！仕上げに入口付近のゲートに絡みついたつたや草を取り除いて整備した頃は全員もう汗だく、ようやくお昼の休憩に入る。

緑陰の下では即席の「森のレストラン雑木林亭」で毎回隊員が交代で担当するシェフが作る心づくしの昼食を摂る。大汗をかいて作業した後の昼食は又格別に美味しく、長く地味でつらい作業を続けられる活動の糧ともなっています。

この日も午後からの猛暑を考慮して一段落した草刈り作業はここまでとし、周囲の整備と使用した機械等の後かたづけを行い活動を終了した。



巨木リサーチ2事業報告  
假屋 英子

東部地域の巨木ガイド活動

七月四日、梅雨の晴れ間に恵まれ、今年度第一回目の巨木ガイドが行われました。朝八時半に市役所集合。受付と資料配布後、一般応募者二八名に巨木リサーチのガイド・写真G十名、市側から二名の総勢四十名が二台のバスに分乗しました。車中では里山の会の活動の紹介や、本日案内する樹木の説明が行われました。

一号車組と二号車組が競合しないよう事前にスケジュールが組んであり、二号車組の私たちは皇産霊神社からスタートしました。鳥居の下で里山の会員の自己紹介のあと、樹木説明役と社寺石造物の説明役とで組になり案内開始。ここは狭い境内の割には三種類五本もの「市民の木」があります。それらの大きさ、特徴、環境の変化によってどう変わってきたか、などを説明してゆきました。

そのあと入口の両部鳥居（本体の鳥居の柱を支える形で稚児柱がある型の鳥居）へ。生命の鼓動を表すという鮮やかな赤色に塗られた鳥居で、下方にはこのあたりでは珍しい四本の支え柱があります。また近くを流れる小野川について、明治のころまでは荷を運ぶ船が霞ヶ浦との間を行き来して活気があったとの説明に参加者の中には身を乗り出して聞く人や質問する人もみられました。身近な場所柄だけにこういう話に興味をひかれる人がいたのではないかと思います。

次に島田のEさん宅へバスで移動しました。ここは昔名主だったという家で屋敷も広大なものです。昔厄除けとして植えられたと思われる正門の希少木サイカチを案内してから庭へ入ります。母屋の左側にある立派な玄関は、偉い人用、右側のは普通の玄関との説明に、驚き顔の参加者も。

裏手に回り樹木と石祠の説明のあと、トイレ休憩のため奥野生涯学習センターへ寄りました。



皇産霊神社鳥居前のサカキの説明をする著者 臼井 10.7.4

後半は井ノ岡の浄妙寺から、イチヨウ・カヤ・クスノキ三本の「市民の木」について説明。ここで初めてイヌガヤが出てきたので、皆さんに触っていただき、類似のカヤの木との感触の違いを体感してもらいました。そしてお堂の中の仏像や、いくつもの石造物について詳しく話をしました。

次は奥原の願名寺です。ここでは樹木の環境と管理活動の様子について、写真を示しながらの説明となりました。寺の建立由来や本堂前の石棺の説明のときには、どちら向きに寝かされていたのかとか、石は当時のものか、など関心のある人が多くおりました。

最後にニキ口ほど離れたY氏宅へ徒歩で移動し、北米産希少木のテラダマツの説明をしました。参加者は説明を聞きながら、大きなマツカサを探し、その鱗片の先の鋭い棘を触ってみる人達もいました。市役所到着後アンケートを回収し、無事解散となりました。



チーム街路樹20 受託事業報告  
坂根 輝一

写真を通しての交流

皆さん日々の活動のなかで、写真をとる機会が増えていきます。携帯しやすく手軽に取れるデジタルカメラの普及に負うところが大きいのですが、一方でパソコンによる編集・保管・印刷・通信といった一連の作業を一人でこなせる楽しさが魅力を増幅させているからでしょう。それにしても今や伝達手段としてのデジタル画像のもつ力には驚かされます。文字あるところにひとつ画像が添えられているとき、その一枚の写真が、文字では言い表せないたくさんの情報を伝えてくれていることが分かります。千編万語よりも、単刀直入、より身近にものを伝える手段として、写真は欠かせないものになっています。

チーム街路樹20では、その活動の一環としてデジタルカメラ講座を開設、講師を招いての勉強会となりました。難しいことではなく「基本のキホン編」と初歩の一步からのスタートです。そこでデジタルカメラの仕組みや撮影テクニック、パソコンによる応用までの基礎知識を会得。とここまでではいいのですが、これで良い写真がとれるのかという点です。これはそう単純でないことは皆さんよく承知しています。これからは受講者各自が意識して撮影技術を磨いてゆく以外に道はありません。

とはいえ、これも容易なことではありません。「シャッターを押せば写る」範囲で十分満足できる機器にこれ以上望むものはありません。めんどろになるだけです。という声が一般的です。

そうですね。肩苦しくせず、気楽に写真を撮ること、おのずと身につく範囲で、「写真を撮楽しんで？」

というようなことで、受講者達で受講者OB会なるグループを結成し、写真による交流を实践しているのがチーム街路樹20の内の「写楽倶楽部」です。

この交流は各自の写真の掲載や感想交換等（ネット上）、月次サイクルで回っていますが、時には撮影会を開催し、近隣の風光を楽しんだり、勉強会と称して撮影技法を見よう見まねでひも解いたり、同士の向上心は旺盛です。

グループの説明

チーム街路樹20の活動の一環として、平成二十一年度実施のデジタルカメラ講座受講者OBで編成された交流会である。写真を通して、日常生活のあれこれをメモ代わりに記録し、時には会員同士の撮影会で山野の自然を楽しむと同時に、人生の機微にも触れて感動を共有できれば幸いである。なお、志を同じくする同好の士の参加を歓迎するものである。

(増田)



写す姿勢をピタッときめて(撮影会にて)



自然観察出前講座  
石神 良三

ヘイケボタル観察会の意義と役割

七月の出前講座の内容は、例年通り市内に生息するヘイケボタル成虫の夜の観察会でした。

今年の依頼は、市内の六つの団体とグループで、述べ六日間に及んだ。観察地は従来より本会々員がその保全に関わっている。根古屋川上流域と遠山川上流域の二か所。夜間活動であるため、参加者（幼児から高齢者まで）の安全を最優先に企画実施されました。

市内でヘイケボタル観察会がはじめて開かれたのは、三年前の七月でした。その年の四月から、牛久自然観察の森の園外事業としてスタートした「根古屋川上流域ヘイケボタル環境保全」活動を、地域の向台小学校（五年生）と協働して進めていたことがきっかけでした。

活動の主役である小学生にとっては、光りながら飛びかう成虫への興味関心が高く、みんな観察したいという願いが、五年生とその保護者も含めた観察会となりました。先生方にとってはご心労も多かったとおもいますが、こども達をはじめ地域の皆さんにも自然環境への認識を深めていただく大きなきっかけになりました。

三年目の今年の参加者は、総数で五八三名でした。三年間では一八〇名をこえました。地域の方々によると、観察会以外の日にもたくさんの人たちが観察され楽しんでいるということでした。

このように継続的に実施されてきた出前講座で私たちメンバーが、いつも参加者に呼びかけてきたことは、



観察前の保育園児と保護者の皆さん

・ヘイケボタルの生活史の説明  
 ・ここで生き続けているのはなぜ？  
 ・周囲の環境と生きものは？  
 ・水はどこから？  
 ・幼虫の食べ物（餌）は何？  
 などの問いかけをとおして、ヘイケボタルの生息環境に目を向け、自然の環境条件が生態系に大きく影響していることや、自分たちと自然との関わり方などにも関心を持って頂ければと願っている。  
 夜間にも関わらず参加者への懇切丁寧な対応に当られた延べ二十一名のメンバーの皆さんの協力に深謝



## コラム

## 里山について

坂弘毅

里山という言葉が、あらゆる媒体を通じて浸透してきました。うしく里山の会も「里山」を使い、活動の場を里山と云うことで、里山の会の知名度も上がってきました。

その里山という言葉の響き、どのように感じているでしょうか。「日本の原風景」とか「ふるさと」といった叙情的なイメージが強く感じられます。

その里山とは本来どのような状態を里山と定義付けするのかを考えてみますと、ヤマ（山）・ノラ（田畑）・サト（里・郷）という昔からあった農村集落を指すようです。この里山と言う言葉が初めて使われたのは、大変古い時代でした。所三男著の「近世林業史の研究」によれば、江戸時代の一七三九年（宝暦九年）に寺町兵右衛門が著した「木曾山雑話」の中に「村里近き山を指して里山と申し候」と書いてあるのが紹介されています。それでは里山の自然を考えてみたいと思います。

関東地方の里山と云いますと、武蔵野の平地林、特に川越近郊の三富新田（さんとめしんでん）が特に有名です。江戸時代に確立された短冊形地割りには現在も循環型農業の手本とされています。牛久木域にも雑木林が残されていて、食物連鎖の頂点に立つ猛禽類が息息できる環境が残されています。

日本の本来の植生とは、西日本の常緑広葉樹の陰樹と言われるヤブツバキなどの広葉樹と東日本の落葉広葉樹の陽樹という棲み分けが出来ていました。即ち暖地には常緑広葉樹、寒冷地には落葉

広葉樹で、関東地方はその境にあつたと考えられます。しかし、関東地方の大半は常緑広葉樹のシラカシやヤブツバキ等で、雑木は出てきません。現在、関東地方でブナの原生林と言いますと、北茨城定波の林野庁学術参考林しかありません。と言つことは、陰樹と陽樹の境は北茨城付近であつたと考えられます。現在里山を代表するコナラ・クヌギ・ミズナラなどは、本来極相林になれないと言われています。その理由は、実生から大木になるためには、十分な太陽光が必要ですが、常緑広葉樹林での雑木の実生は育たないのです。落葉広葉樹は山火事や崖崩れなどの攪乱、また人間が手を加え続けることによつてつくられた二次林で、関東地方の雑木林は主に江戸時代に確立されたものです。

この雑木林には歴史的背景があります。前述の埼玉県の三富新田は五代將軍綱吉の寵愛をうけた柳沢吉保（元禄七年（一六九四年））が川越藩に七万二千石で入封したあと、農政改革で現在の三富新田を確立しました。そして牛久に残された雑木林は八代將軍吉宗の時代、江戸の人口急増に対するエネルギー政策の一環として設けられた政策林でした。この政策林は江戸を取り巻く周辺の村々に、「御林」と呼ばれる薪炭林が設けられ、それまでの常緑広葉樹は次々と伐採され、アカマツを中心にクヌギ・コナラが植林されていきました。その名残が牛久にも残されています。この二次林は長い歴史の中で独特の生態系を生みだし、この環境に順応する動植物が定着したのです。

その環境が二次林の代表雑木林であり現在の里山なのです。

### 運営委員会からのお知らせ

坂弘毅

今回は特に大きな連絡事項はありません。イベントのご案内

「農」と里山シンポジウム

江戸時代に開拓された屋敷地と畑と平地林の短冊形地割りは現代も循環型農業のモデルと云われています。この「農」と里山のシステムを未来に向けて発展させるためのシンポジウムです。

九月十八日(土) 午後一時～四時

埼玉県所沢文化センター 三品マーキーホール  
参加される方は坂までご連絡ください。

事前申し込みが必要です。

牛久沼うなぎ放流

九月二十六日(日) 九時～十二時

根古屋川特設会場

市のイベントに里山の会がサポート。

第三回うしく里山秋祭り

十月三十日(土) 牛久自然観察の森にて

うしくの里山フォトコンテスト

作品募集中(九月十九日締め切り)

入賞作品発表 十月二十日

表彰式 十二月中旬

詳しくはフォトコンテラシをご覧ください。

七月の会報に同封しました。



### 結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

### 九月の活動日時

九月三日(金) 午前九時～十一時半、

九月十九日(日) 午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

(予約不要/荒天時は中止 ホームページに情報掲載)

問い合わせ先

029-874-6600 担当:石神



### 牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

### いよいよ開催!竹ランタンライトアップ

九月二十二日水曜日の「竹ランタン・お月見の夜のライトアップ」開催が間近となってきました。先月号でもお伝えしましたが牛久自然観察の森でのランタンライトアップ行事は初めてで、大作&笹谷レインジャーを中心に準備も大詰めを迎えています。当日使用する竹ランタンは、子どもたちを中心に一般の市民の皆さんに絵を描いてもらったもので、当日は三百本近くがバツタ原に設置される予定です。(これまで「ひたち野うしく七夕フェスタ」本会出展ブースで六十本、「うしくかつば祭り」本会出展ブースで六十五本、観察の森夏休み行事で三十本が完成しています。)

どうぞ皆さん、九月二十日の直前製作会ともどもご参加ください。

### 【竹ランタン・お月見の夜のライトアップ】

日時・平成二十二年九月二十二日水曜日

午後五時から七時半まで

場所・バツタ原からネイチャーセンターまで

### 【竹ランタン直前製作会】

日時・平成二十二年九月二十日祝日

午前十時から終日

場所・ネイチャーセンター(無料)

詳細は担当大作レンジャーまで

### 今月の古木・希少木 No.41 アカメカシワ

トウダイグサ科の落葉高木。宮城・秋田県以南、朝鮮半島、台湾、中国東北部に分布。その特色は和名に表わされています。先ずアカメ。早春、赤く色づいた美しい芽(赤芽)に由来しています。ほかにチャンチン(参考)、カナメモチなども新芽

が紅葉しますが、いずれも成長とともに緑の葉へと変化します。次のカシワ：うっかりするとカシワ(ブナ科)の仲間と間違えてしまいます。なぜカシワか? カシワと同じように食べ物を盛るために葉を使ったことにより。そのことから五葉(ゴサイバ)、菜盛葉(サイモリバ)ともよばれます。葉は長さ一〇～二〇cm、幅五～一〇cm、写真のような円状卵形から菱形卵形で先端は突出して尖っています。開花は七月頃、雌雄異株で枝先に長さ八～二〇cmの円錐花序をつけます。雄花、雌花とも淡黄色で地味な色合いです。

牛久町の八坂神社の参道に入って右側に、アカメガシワとしては大きな古木が見られます(雄木)。幹周一二八cm、樹高一三mで太さは中程度ですが、



葉の形が易い食べ物の料理が盛られたか? 戸塚 10.8.6

高さは高い方です。芽吹きの色と葉の用途に着目した命名に、昔の人々の木への愛着、自然と日常とのかわりを感じます。

(羽賀正雄)

2010年 9月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1 巨木リサーチ2特 8:30市役所玄関前	2 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	3 コアップ作戦 9:00NC	4 親子農業体験講座 9:00畑  (会報等原稿不切)
5 巨木リサーチ2特 8:30市役所玄関前	6 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7 森の畑 9:30畑	8	9 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	10	11 里山自然観察隊 9:00森P
12 雑木林応援隊 9:00ムジナ	13 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	14 森の畑 9:30畑 里山自然観察隊 9:00得月院P	15	16 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	17 チーム'街路樹20(受) 13:00市役所ラティFC (樹名板換収)	18 親子農業体験講座 9:00畑 雑木林応援隊 9:00炭屋
19 雑木林応援隊 9:00炭屋 運営委員会9:00NC コアップ作戦 13:00NC フォトコン一次審査 13:00文化青年研修所	20 (敬老の日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭屋	21 (休園日) チーム'街路樹20(受) 8:30市役所ラティFC (巡回管理)	22 森の畑 9:30畑	23 (秋分の日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	24	25 巨木リサーチ2特 8:30市役所玄関前 チーム'街路樹20(受) 13:00市役所ラティFC (交流会)
26 雑木林応援隊 9:00炭屋 会報発送 13:00NC	27 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	28 (休園日)	29 (休園日)	30 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 森の畑 9:30畑		

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください!

〔凡例〕  
森: 牛久自然観察の森  
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター  
P: 牛久自然観察の森駐車場  
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋  
畑: 牛久自然観察の森駐車場奥の畑  
コジユケイ: 牛久自然観察の森内コジユケイの林  
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑  
  
ムジナ: 結束町の雑木林(通称ムジナの里)  
  
市役所: 牛久市役所本庁舎  
ボランティアC: 牛久市ボランティア  
市民運動センター  
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター  
  
アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園  
  
(休園日): 牛久自然観察の森休園日  
(受): 受託事業  
(特): 特別事業



編集後記

早くも九月のカレンダーを表示する時期になりました。  
・九月八日 白露(はくろ)二十四節気の一つで秋分前の十五日になる。この頃から秋気がようやく加わり野草に白露が宿る頃。  
・九月九日 重陽(ちようよう)陽の数である九が重なる意で五節句の一つになる。陰暦九月九日、菊の節句・九月の節句という。  
・九月二十三日 秋分 二十四節気の一つで秋の彼岸の中日にあたり昼夜の長さがほぼ等しくなる。  
このように九月のカレンダーでは秋の表現が多くなります。暑さ寒さも彼岸までと言われますが、しかし、天気予報では九月十月にこの猛暑という残暑が続くようです。  
今年の猛暑が続く異常気象は「ラニーニャ現象」の影響といわれています。  
ラニーニャ現象とは、東太平洋の赤道付近(ガラパゴス諸島)で海水の温度が低下する現象で、異常気象となり猛暑や寒冬の傾向になります。  
ラニーニャ現象に対してエルニーニョ現象があります。  
エルニーニョ現象とは、ラニーニャ現象とは逆に東太平洋の赤道付近で海水の温度が高くなる現象で、やはり異常気象となり冷夏や暖冬の傾向になります。  
エルニーニョ現象とラニーニャ現象は交互に現れることが多いですが、ラニーニャは二〜三年持続することが多いようです。(ウイキペディアより)  
今年もまだまだ暑い日が続きます。体力が消耗していますので会員の皆さんも体調管理に充分留意してください。  
佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2010年10月号の発送は9月30日(木)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願います。